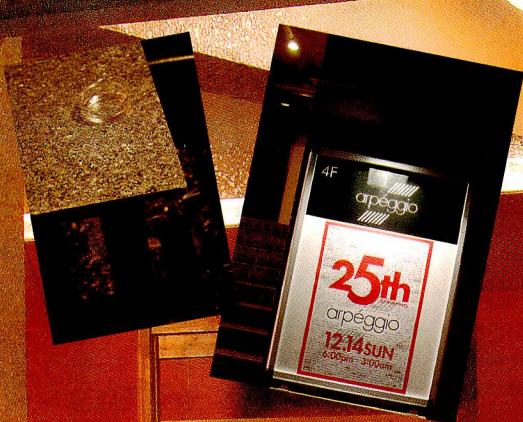


arpéggio 25th Anniversary @arpéggio

今この瞬間の喜びと
未来への希望を25周年に込めて

「ファミコン」が発売され、「東京ディズニーランド」が開園し、テレビドラマなら「金曜日の妻たちへ」、クイズ番組なら「世界まるごと HOW MUCH!!」、安全地帯が「ワタシの心」を、THE ALFEEが「メリー・アン」をヒットさせた。1983年とは、そんな年だった。その年の12月13日に、『arpéggio』というバーは誕生した。それから二半世紀、創業者である恒岡さん亡き後を受け継いだ川崎さんは、25周年という今宵をこう振り返った。「自分が『arpéggio』というバーの歴史の一部になれたことを光栄に思います」。1983.12.13という時代に、まだ生まれていない人の来店やスタッフもいる。25年の重みとは、簡単に言うとそういうことだ。

1999年、本誌特集で撮影したスース姿の恒岡さんの写真が、今もカウンターを見るように店内に飾られている。「常に師匠の目線を感じてほしい」。川崎さんのみならず、木屋町のバーオーナーたちにとって、この店は目標であり、マイルストーンであり、時に戒めであった。だからこそ、今宵来店した300人を超える人々すべてが今宵の祝いを異口同音で「恒岡さんと川崎さんに」と捧げる。だが、当事者である川崎さんはそつとう語った。「そして未来の『arpéggio』のオーナーに」。いかに自分もバトンを渡す時が来るだろう。その時に『arpéggio』が『arpéggio』であり続けるように…。



1.「闇魔堂」の高橋オーナーと高木さんも参加。「この店がなかつたら今の僕らはないですね…。30周年の時もぜひお祝いしてください！」 2.マキさんは『arpéggio』の常連。お連れのヨシユキさんは初めての来店だとか。「川崎さんの苦労を知っているからこそ、今日はお祝いに」とマキさん。 3.京都という街を、そして『arpéggio』をこよなく愛するハッキー井上さんを。 4.木屋町でバーを営む人々も数多く来店。「VIVA」のICHIROさんと親友の勝村さんは恒岡さんの思い出話に華が咲く。今宵DJを務めたのは「VIVA」のスタッフ・クロードくん。「光栄っす！」 5.恒岡さんのご友人でもあるオッチャンとその家族、仕事仲間で今宵は来店。「家族ぐるみ、仕事ぐるみで来ても、ここは落ち着ける店なんや」

「入店時はアルバイトだったんですが、まさか今日をこんな形で迎えるとは思いませんでしたね」とは『arpéggio』の二代目オーナーである川崎さん。自身、25年を振り返っての一言。「本当にまさか、まさかの25年でした」